

出許仍与願是より一札を互上へ吹浦には
其安を祈り又其如也

お後一札之事

一多海山寺堂に奉請し流籠表に願是を
乃中兼吹浦に流籠及共裏に矢崎小流
流沃云々所と奉請し流籠乃共於中堂に
拜し言吹浦に流籠及共に流籠と仕に模
乃中兼吹浦に流籠及共に流籠と仕に模
夜吟味仕承座 師公儀様口より上作
山上より風雨之言を夜仕に刻き今度列

成し建立仕に長床、通夜に仕に本堂に
傳一人茂祐と申す官後仕に付る少くお達
其由を以て後日流籠と云ふ

延宝六年 午七月

多海山一和

般若院市

宝蔵院市

南生院市

清水坊市

為流籠中

寺社志

山田氏と云ふ

小君七と云ふ